

原井市長 地域活動とかボランティアも含めて、大学から飛び出して地域で学んでくる。それが単位につながるという仕組みなんです。

四国大学さんは県下の自治体と協定を結ばれていますが、県内24市町村中、どのくらいの自治体と協定を結ばれているんですか。

松重学長 ちょうど半分くらいですね。

原井市長 まずはきっかけとしてということですね。

松重学長 協定を結ぶことによつていろんな人が動きやすいんですね。例えば担当者がいちいち市長にお伺いしなくてもいいです。この数年間で締結数を増やしてきているんですけど、やはりそれからどう具体的にやるかが問題になってきます。例えば、地域おこし協力隊の方をダブルアポイントメント(兼任)させていたいただいて、四国大学の地域連携の役割を与える。そうすると定期的に四国大学に来ることができて、そこでいろんな依頼や相談ができる。また、他の地域の状況もわかる。ですから吉野川市の3人の地域おこし協力隊の中から1人でもいいので、そういう任命をされて月に1回か2回四国大学に公用で行くようにすればつながりが出てくると思います。



原井市長 私も何度か四国大学さんのキャンパスに行かせてもらったことがあるんです。市長に就任する前ですが、鴨島駅前の活性化イベントに関わっているときに、吉野川市から100人近くの学生が四国大学に通われているということをお聞きして、学生さんの知恵とかアイデアをもらいたいと思いい度か知り合いの教授を訪ねたことがあります。学生さんには市のイベントをたくさん手伝っていただきましたし、学生さんからしても地域に出て行ってそういうイベントに関わったら単位が

松重学長 スポーツの持つ力を重要視しています。県内の18歳人口は減少していくのはわかっていますから、いかに県外から学生を確保するかという面で、大学の特徴を出す方法としてスポーツは重要になってくると思います。現在、陸上競技など6種目を強化種目としていて、全国から多くの学生さんが来ています。学内にもさまざまな球技場というスポーツ施設がありますが市長は来られたことがありますか。

原井市長 大学のパンフレットでしか見たことがありませんが、人工芝の素晴らしい球技場ですね。

松重学長 あそこは女子サッカーと女子ラグビーが練習などを行っています。ともに強化種目として、選手を増やしているところですね。

原井市長 本市もこのアリーナと上桜スポーツグラウンドという人工芝のグラウンドがありまして、つい先日ラグビーの県インターハイ代替大会の決勝戦が行われました。

松重学長 サッカーもラグビーもグラウンドの広さはほとんど同じなんです。ですのでボールを立てればラグビーに使用することも可能です。女子ラグビーもそこで練習試合ができるようになればいいですね。

原井市長 協定締結を一つの契機として学生さんたちとスポーツを通じた交流も持てればと考えています。

ご存じのとおり全国の多くの自治体の財政は非常に厳しい状況にあります。そんな中で、本市も身の丈にあった予算で今まで以上に知恵、アイデアを振り絞って行政運営をしなければいけないと思っています。しかし、市職員には目の前に与えられた職務がある中で、プラスアルファで新しいことを考えていくというのはなかなか難しい面がありまして、そういう意味でも学生さんの若い発想とか柔軟な考えというのを取り入れさせてもらいたいと考えています。

松重学長 吉野川市の施設を学生の教育とかボランティアの場所として活用させていただくという観点からも、是非、そういう機会を設けていただければと思います。

原井市長 市としても、連携による活性化を目指しながらも、交流の中で学生さんの人材育成や学術研究の振興につなげていきたいという考えであります。

本日は貴重な時間をいただき、ありがとうございます。

取得できるということで協力いただいた経緯があります。

松重学長 私たちもそういう機会を作ってあげるといのが重要なことだと思っています。地域によっては学生のアイデアや行動力に任せるところもあるんですけど、そういう仕組み作りは個々ではできないので、まさにこういう包括連携協定を結ばせざるを得ないと思います。

原井市長 四国大学の学生さんは7割以上が県内出身なんですね。

松重学長 はい。72パーセントですね。

原井市長 しかも多くの学生さんが県内での就職を希望されているんですね。

松重学長 そうです。実は県内の就職希望者は徳島県出身の学生の割合と同じかそれ以上なんです。そういった面からすると四国大学は地元密着型で地域に貢献しているのかなと思います。

原井市長 本市にも四国大学を卒業された方が保育教諭を中心にたくさん入ってくれてまして、非常にお世話になってます。

松重学長 最近では海外からの留学生が増えているんですけど、徳島で就職する人が増えてきています。だからそういった面からするとインバウンドが観光だけじゃなくて就業にもつながる。それと今回のコロナ禍で地域志向とい

うのが増えてくるのではないかと思います。

原井市長 おっしゃるとおりですね。現在のコロナ禍で地方が見直されてきているように思いますし、市としてもシニアプロモーションをしていく必要があるなど考えています。映像コンテンツなどの制作を四国大学さんにもご協力いただければと思っています。

松重学長 メディア情報という学科があつて、いろんな映像を作ってるんですよ。学生に協力してもらおうと経費の削減にもなるでしょうし、学生にとつてもいい経験になります。この市民プラザのプロモーションビデオはもう作成されたんですか。

原井市長 まだできていないので、今後相談させていただくこともあるかと思います。

あと、スポーツのほうもかなり力を入れていると思うんですけど、スポーツの交流棟を昨年オープンされたんですよね。

松重学長 スポーツ健康館という施設になります。1階がトレーニング室、2階にアリーナがあります。だけど吉野川市アリーナを見ると全然こっちがいいなと思いました(笑)。

原井市長 強化種目があるとお聞きしていますので、ここで練習や試合をしていただければと思います。

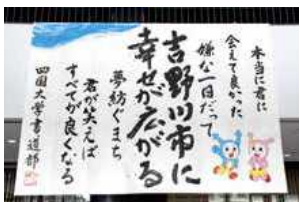
地域貢献に関する 包括連携協定 締結式が 執り行われました

7月15日、対談終了後の市民プラザにおいて、本市と四国大学および四国大学短期大学部との地域貢献に関する包括連携協定締結式が執り行われました。

この協定は、それぞれの有する資源や特色を生かしながら、地域の課題解決や活性化に取り組み、地域社会への貢献と大学の教育研究活動の充実に寄与することを目的としています。今後は学生の皆さんの若い力や柔軟な発想をはじめ、大学の有する資源を存分に生かしながら、本市の課題解決や活性化への取り組みを共に推進していきます。



協定書を手にする松重学長(右)と原井市長(左)



会場に飾られた四国大学書道文化学科の学生による作品